

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.18〉

### <吉部① 特徴>

美祿市と隣接し、宇部市の最北部に位置する吉部地区。面積は30・22平方キロで、北部には市内最高峰の荒滝山（標高459㍎）がそびえ、林野が7割以上を占めている。中心部には、旧船木街道に沿って発展した宿場町の面影が残っており、懐かしい日本の原風景を思わせる。

# 地区の7割が林野、懐かしい原風景



市内最高峰の荒滝山

## 米を生かした多彩な特産品



吉部

江戸時代以前は東吉部、西吉部の2村に分かれており、1889年の町村制の施行で吉部村が発足。1955年に船木町、万倉村と合併して楠町となり、2004年に宇部市に編入合併した。地区内には、荒滝山頂の巨岩や山頂近くのくぐり岩、国指定天然記念物の大岩郷、高合石、竜岩、厚東川の夫婦岩など岩に関する名所が複数点

### 基本データ

- 面積30.22平方キロ（4位）
- 世帯数369世帯

- 人口713人（24位）（男性330人、女性383人）
- 高齢化率51.5%
- 小学校児童数22人
- ※世帯数などは2022年4月1日現在

在する。同山には登山道が整備されており、独立峰のため、周囲を一望できる。

地区を代表する吉部八幡宮（野村清風宮司）は鎌倉時代中期の1261

年に創建された。毎年11月3日には芋9個、餅9個を煮て神前に供える「芋煮えの神事」が、創建当時から今も受け継がれている。

地域おこしに取り組む吉部文化推進会の大田壮助代表は「山あいの地区だが、新幹線の駅に近く幹線道路もあって交通の便はいい。住民はおもてなしの心を持ち、一体感があるのが特徴」と口にする。

稲作を中心とした農業が活発で、吉部米は米・食味分析鑑定コンクールで特別優秀賞を受賞。タケノコやキュウリ、レタスも多く収穫され、地元イベントなどで販売されている。まちづくりにも取り組む野村宮司は「米が特においしい。粘

土質の土壤が稲に合っているのでは」といっている。特産品は、江戸時代中期に発案されたといわれる「ゆづれい寿司」、地域住民で運営する朝市・食堂「おいでませ吉部」で作られている郷土菓子「卒（さお）まんじゅう」（卒（さお）まんじゅう）、「ぎなた餅」、同地区名物の米粉まんじゅう「カールカン」などが有名だ。

市内有数のホテルの生息地としても知られ、6月には初夏の風物詩「吉部はたるまつり」が開催される。同八幡宮では3年に1度の伝統芸能「吉部村芝居」が行われ、地元住民が出演。近年では旧吉部小の校舎を活用した職員室カフェやフリマルシェが展開され、地区内外から多くの人が訪れている。